[redacted]よりの意見書に対するコメント

2007年12月16日

構造WG委員 [redacted]

References:

[redacted]：「中越沖地震により得られる知見として、現段階で反映するべき事項」

[redacted]：新潟県中越沖地震を踏まえて「バックチェック評価手法及び確認基準」に反映すべき事項について

このたび、表記Referencesに示される意見書が事務局より提示された。構造WGを構成する委員として2名委員より提出の意見書に対してコメントを下記に記す。両委員よりの意見書内容について賛同すること多々であるが、同意しかねる事項もあり、コメントとして意見を述べる。

1．新潟県中越沖地震の評価について

中越地震がどのようなカテゴリーに属する地震であるかの評価を“ちゃんとする”ことについては賛同するところである。耐震設計審査指針における「震源を特定して策定する地震動」と捉える場合の評価、ならびに「震源が特定せず策定する地震動」と捉えて評価する場合の取り扱い（[redacted]指摘）については、正鵠な意見とし、同意するところである。また、纐纈委員よりの「構造体等にかかわる地震」を新たに追加する提案事項に関しても、地帯構造を強震動評価に積極的に取りこむ方向として適切な指摘とするところである。

2．観測記録の利用について

今回地震時に建屋基礎版で記録された観測地震動を、既存原子力発電所施設の耐震安全性確認のバックチェックに検討波形として使用させる提案については同意しかねる（[redacted]は、当面の措置と位置づけてはいるが）。

昨今、ならびに近い将来的な方向としては、耐震設計で想定する強震動は本来的にSource SpecificかつSite Specificな現象であり、条件を付せずに特定地震による特定地点の観測記録を一律に耐震検討入力とするのは体系に矛盾を内包させることになる。その位置付け（例えば、震源が特定できない地震による地震動とする等）を明確にする前に大きな（深い）地盤構造（地帯構造）ならびに浅い地盤構造が異なる他サイトに一律検討用地震動として取り扱う点には賛同しかねる。